

架け橋期のカリキュラムの検討・開発のためのガイド

本ガイドは、「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）（文部科学省、令和4年3月31日）」を参考に作成しています。

1 架け橋期のカリキュラムについて

「架け橋期」とは？

5歳児から小学校第1学年までの2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期です。この時期を「**架け橋期**」と呼びます。

「架け橋期のカリキュラム」を検討・開発するのはなぜ？

架け橋期において、施設類型や学校種の違いを越えて連携することが大切だからです。幼保小の教育のつながりを意識した活動が、子供の豊かな体験を生み出し、主体的・対話的で深い学びの実現につながります。

検討・開発にあたっての留意点は？

- ・幼保小の先生が気軽に話し合える関係を構築し、対話をすることが大切です。
- ・実質的な話し合いや実践を重視し、具体的な取組を可視化し関係者で共有するために、わかりやすさを意識しましょう。

2 架け橋期のカリキュラムを進める上で大切にしたいこと

架け橋期のカリキュラムを進める上で重要になってくるのが、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」です。

「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」とは？

幼児期の終わり頃に具体的にどのような姿として現れるかを明確化したのが、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」です。この「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」は、幼児教育と小学校との連携・接続の手掛かりとなります。

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範
意識の芽生え

社会生活と
の関わり

思考力の
芽生え

自然との関わり・
生命尊重

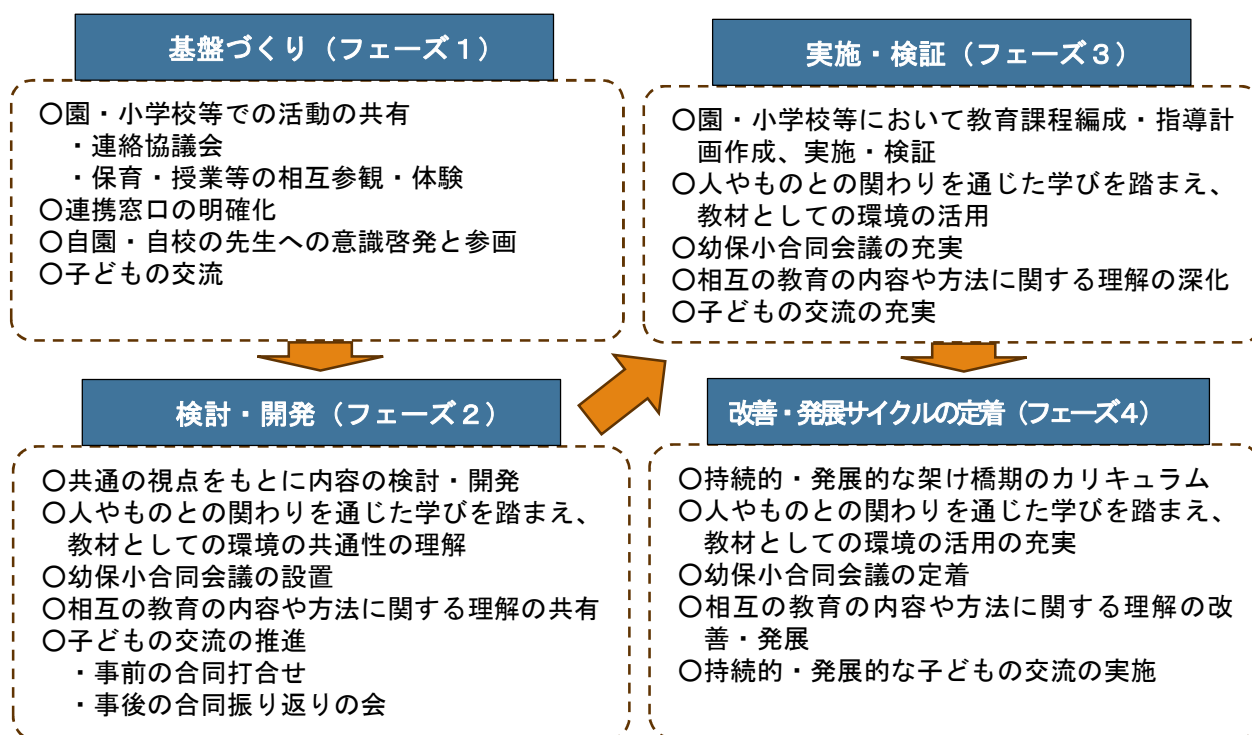
数量・図形・
標識など
への関心・
観察

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

3 架け橋期のカリキュラムの進め方について

架け橋期のカリキュラムの検討・開発がゴールではありません。基盤づくり（フェーズ1）から改善・発展サイクルの定着（フェーズ4）までの流れの一部分であることを理解しましょう。



4 架け橋期のカリキュラムの検討・開発の手順

架け橋期のカリキュラムの検討・開発の手順は以下のとおりとなります。

なお、本ガイドで示す架け橋期のカリキュラムシートは、一つの例として示していますので、市町村や校区の実態に応じて変更してください。

①「期待する子ども像」を設定する。

市町村・校区でどんな子どもを育てていくのかを話し合い、「期待する子ども像」を設定しましょう。

②「特に関連する幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見出す。

「期待する子ども像」から「特に関連する幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見出しましょう。

③活動や配慮事項等について共有する。

「期待する子ども像」と「特に関連する幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識しながら、「園で展開されている活動や小学校の生活科を中心とした単元構成」「配慮事項」「共通した取組」等を共有しましょう。

5 架け橋期のカリキュラムに基づいた実践の振り返り・カリキュラムの見直し・改善

カリキュラムに基づいた実践について振り返りをしましょう。また、カリキュラムについても見直しや改善を図っていきましょう。（フェーズ3・4）

※「スタートカリキュラム」や「接続期のカリキュラム（小学校就学前）」については、架け橋期のカリキュラムとの整合性を図りましょう。

架け橋期のカリキュラムシート（例）

①「期待する子ども像」を設定する。

②「特に関連する幼児期までに育ってほしい姿」を設定する。

③活動や配慮事項等について共有する。

〇〇市架け橋期のカリキュラム【〇〇小学校区】（〇〇幼稚園、〇〇こども園、〇〇保育園、〇〇小学校）

| 期 | 5歳児 | | | 小学校1年生 | | | | | | | | |
|-------------------|---|---|---|--------|---|---|----|----|----|---|---|---|
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
| 期待する子ども像 | 周囲の人々や環境と主体的に関わり、学が喜びや楽しさを実感しながら仲間と共に育ち合う子ども | | | | | | | | | | | |
| 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 | ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④連綿性・規範意識の芽生え ⑤社会生活と関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧量・図形、文字等への関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現 ・考えたり、工夫したり、失敗したことを繰り返しながら、自分なりに最後までやってみたいとする。 ・友達と互いの思いや考えを共有し、友達と一緒に考えたり、工夫したり、協力したりすることを楽しむ。 ・共通の目的に向かって先生や友達と協力して生活したり、学が含んだりする。 ・友達と互いの考えや気持ちを伝え合いながら一緒に活動する。 | | | | | | | | | | | |
| 特に関連する活動 | 遊びや学びのプロセス 遊びの中の気づき・学びの芽生え | | | | | | | | | | | |
| 配慮事項 | <〇〇幼稚園> 卒園式 卒の苗付け お店屋さんごっこ お泊まり会 運動会 発表会 町あげ 卒園式 ※年間を通じて 絵本の読み聞かせ・運動遊び・造形遊び <〇〇保育園> <〇〇こども園> | | | | | | | | | | | |
| | ※それぞれの園の活動を記載しているが、各園の共通した活動や体験を記載することも想定される。 | | | | | | | | | | | |
| 共通した取組 | ・幼児が主体性を発揮して活動が展開できるよう、幼児と適切な関わりをもつ。（活動の理解者、共同作業者・共鳴する者、憧れを形成するモデル、遊びと課題解決の援助者） ・失敗しても挑戦しようとする子どもに対する肯定的な言葉かけ ・幼児が活動に没頭し、遊び、充実感や満足感を味わうことのできる環境構築 | | | | | | | | | | | |
| | ・幼児期の遊びを通じた総合的な指導を意識しながら、子ども一人一人を見取る。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。 | | | | | | | | | | | |
| 子どもの交流 | ・声の物差し ・姿勢の合同 ・合同運動遊び（〇月） ・学校授業体験（〇月） | | | | | | | | | | | |
| 関係者の交流 | ・保育参観（〇月） ・授業参観（〇月） ・合同研究会（〇月、〇月） ・幼保小連携・接続についての周知・理解を図る。（保護者会、入園・入学式、PTA、学校運営協議会、通信など） | | | | | | | | | | | |
| 振り返り | | | | | | | | | | | | |

※①「期待する子ども像」、②「特に関連する幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した配慮事項を記載する。

〇〇市架け橋期のカリキュラム【〇〇小校区】(〇〇幼稚園、〇〇こども園、〇〇保育園、〇〇小学校)

| | | 5歳児 | | | 小学校1年生 | | | | | | | | |
|----------------------------------|-------------|--|---|---|--------|---|---|----|----|----|---|---|---|
| 時期 | | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
| 期待する子ども像 | | | | | | | | | | | | | |
| 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 | | ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活と関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧量・図形、文字等への関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現 | | | | | | | | | | | |
| 特 関 重 要 な 姿 | | | | | | | | | | | | | |
| 遊びや学びのプロセス | | 遊びの中での気付き・学びの芽生え | | | | | | | | | | | |
| 小学校の生活科を中心とした単元構成 園で展開される主な活動 | | | | | | | | | | | | | |
| 配 慮 事 項 | 女性の関わり・役割 | | | | | | | | | | | | |
| | 環境の構成・環境づくり | | | | | | | | | | | | |
| 共通した取組 | | | | | | | | | | | | | |
| 子どもとの交流 | | | | | | | | | | | | | |
| 関係者の交流 | | | | | | | | | | | | | |
| 家庭・地域との連携 | | | | | | | | | | | | | |
| 振り返り | | | | | | | | | | | | | |